

北九州子どもつながりプログラムの活用

(北九州市対人スキルアッププログラム)

《北九州子どもつながりプログラムのねらい》

- ◎小中9年間で、子どもの実態や発達段階に応じて、人間関係づくりのスキルを獲得する。
- ◎児童生徒の自尊感情を高め、自分の気持ちをコントロールする方法を学ぶ。
- ◎友だちと互いのよさを認め合い、協力できる関係をつくる。

《教育課程での位置付け、活用について》

- ◎本プログラムでは、小中9年間で、前期(4年間)・中期(3年間)・後期(2年間)に分けています。学校の実情に応じてプログラムを組み替え、計画的に教育課程に位置付けてください。また、本プログラム学習のねらいに沿った題材を加えることも可能です。
- ◎小学校1年生～中学校3年生は各学年、年間6時間を標準とします。学期に2時間程度実施してください。
- ◎特別支援学級や特別支援学校は、学級や学校の実情に応じて時間数を設定してください。
- ◎学習指導要領の学級活動(2)「イ よりよい人間関係の形成」の指導等や、道徳、各教科等の学習に関連させて行ってください。また、修学旅行等学校行事の事前指導やふれあい合宿のプログラム等に位置付けて行っていただくことも可能です。
- ◎ワークシートや掲示物等の資料は、教育イントラナビの教材に掲載しています。適宜活用してください。なお、「実践事例」にある準備物が、すべて「資料」の中に含まれているわけではありません。

《研修について》

- ◎体系的なプログラム学習ですので、すべての教職員の共通理解が必要です。積極的に校内研修を開催してください。小中合同研修も有効です。
- ◎毎年各校で実施している、スクールカウンセラーによる「対人スキルアップ」の校内研修の中で「北九州子どもつながりプログラム」を取り上げ、活用していただいても構いません。

《実態把握及び効果検証について》

- ◎日常的に児童生徒の様子を見取ったり、アンケートを定期的にとったりすることで実態や変容を把握してください。
- ◎児童生徒や学級の実態を把握するとともに、子どもつながりプログラムによる児童生徒の変容を検証するツールとして、福岡教育大学の小泉令三教授が開発した「SEL-8S 評価用資料」があります。(ホームページからダウンロードしてください。)積極的に活用してください。

▶ [トップページ](#)

<http://sel8group.jp/index.html>

▶ [授業用資料・評価用資料ページ](#)

<http://sel8group.jp/sel8s.html>

● 長期欠席・不登校の具体的対応

「小中連携SUTEKIアンケート北九州版」の活用について

「小中連携SUTEKIアンケート」は、小学校高学年からの取組で「中1ギャップ」など、環境の変化を乗り越える力を身に付けることを目的としています。

「自己効力感」を7つの観点で分析し、一人一人の「自信」の程度を把握することができます。「自信」がもてるよう、結果を活かして指導を工夫しましょう。

教育指導計画の中でも、必ず実施する取組となっています。集計等の負担が軽減できるよう「アンケート用マークシート」や「マークシート分析」などを校務支援のイントラナビにアップしています。

※イントラナビ→生徒指導・教育相談課→「様式」

7つの観点

- ① 学校生活で自分を律する力
- ② 家庭学習で自分を律する力
- ③ 気持ちを言葉で伝える力
- ④ 周囲を害することを自制する力
- ⑤ 気持ちを切り替える力
- ⑥ 友だちなど周囲の人と信頼関係を結ぶ力
- ⑦ 家族と信頼関係を結ぶ力



22のアンケート項目の一部

- ◎「自分で時間を見て行動できる」
- ◎「自分のしたいことでも、してはいけないときに我慢をすることができる」
- ◎「落ち込んだときでも、気持ちを切り替えることができる」
- ◎「先生方や年上の人にきちんとした言葉づかいができる」

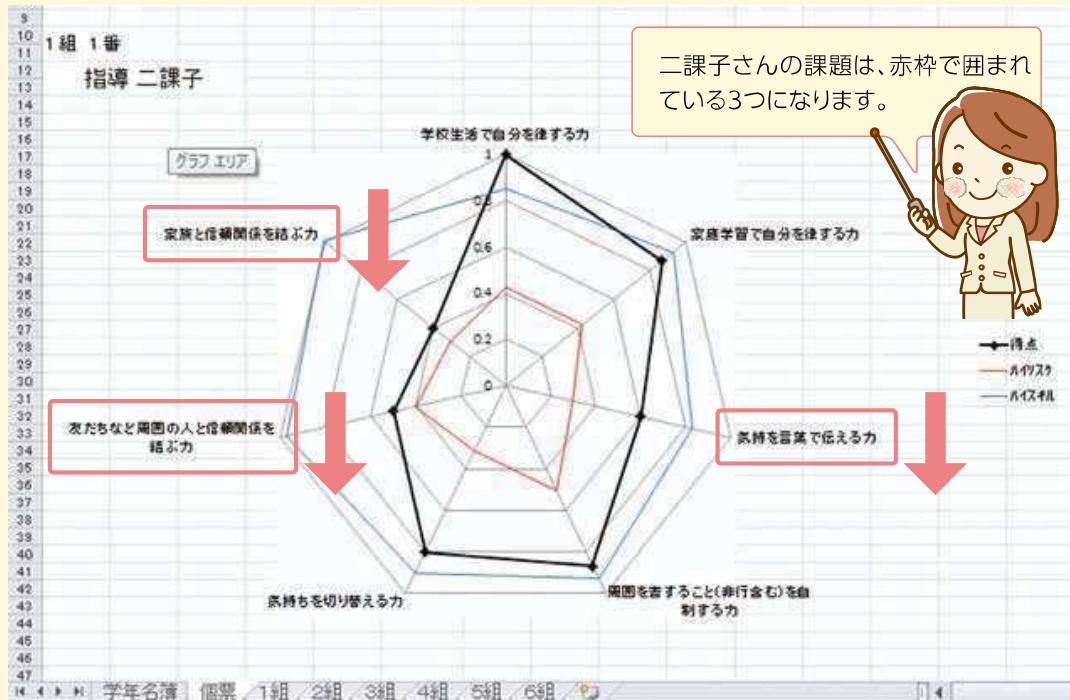
好事例

◎集計結果を個人のレーダーチャートで確認できるため、「自分の気持ちを上手に言葉で伝える力」など、個に応じた課題へのアプローチの方法が明確になった。

◎成功体験を意識した学校行事や学級活動などで、「自信」をもたせることができた。

◎アンケートの結果を基に、SCとの面談に活かすことができた。

◎「自信」をもたせることで、表情がよくなり、登校できる日数が増加した。



● 長期欠席・不登校の具体的対応

「コグトレ」に取り組んでみませんか。

～ 子どもへの理解を深め、支援を充実させるために ～

コグトレとは・・・

立命館大学 宮口幸治氏が提唱する「認知機能」に視点をいたトレーニングで、Cognitive(コグニティブ) Training(トレーニング)の頭文字をとったものです。コグトレでは、子どもを支援するため、3つの面(社会面、学習面、身体面)からの包括的支援プログラムを設定しています。

学習面への支援

認知機能(記憶、言語理解、注意、知覚、推論・判断)は、受動・能動を問わず、すべての行動の基盤であり、教育・支援を受ける土台です。認知機能の弱さは、学習へのつまずきにもつながります。このことから、認知機能に視点をいた支援を行うことは、子どもの学習の土台づくりと学ぶ意欲の向上につながります。

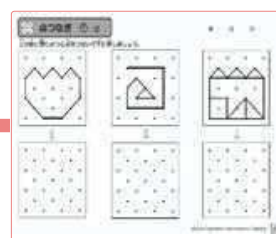
学習面への支援は、「①覚える ②数える ③写す ④見つける ⑤想像する」の5つのトレーニングで構成されています。具体的には、資料のようなワークシートを使って、子どもにつけたい力を高めていきます。ゲーム感覚で楽しみながら、取り組むことができます。



資料 「数える」トレーニングの例



資料 コグトレトレーニング構成



資料 「写す」トレーニングの例

社会面への支援

対人関係などの社会面の力を伸ばすことは、子どもたちが様々な人との関わりを通して、よりよく生きることにつながります。社会面への支援は、「段階式感情トレーニング」「危険予知トレーニング」「対人マナートレーニング」「段階式問題解決トレーニング」の4つのトレーニングで構成されています。

例えば、「段階式感情トレーニング」では、相手の表情に気付く、相手の表情を読むことからトレーニングを始めます。他者の感情を理解することは、相手とよりよく関わるために大切です。



資料 「段階式感情トレーニング」の例

身体面への支援

身体的不器用さは、学習や対人関係にも影響します。そのため、失敗体験が重なると、自信をなくすことにもつながります。そこで、自分の身体の動かし方や物をうまくコントロールする方法をトレーニングします。例えば、新聞紙で作ったコグトレ棒を3人で同時に投げ、受け取るトレーニングでは、相手が受け取りやすい投げ方を考えながら行います。学級レクリエーションにも取り入れることができます。



資料 コグトレ棒を使った身体面への支援の例

- 長期欠席・不登校の具体的対応

コグトレに取り組むメリットは…

支援の方法が明確になります。

コグトレの取組を通して、子どもの実態が見え、支援の方法が明確になります。例えば、聞くことが苦手な子どもが多い学級では、聞くトレーニングで力を高めたり、視覚的な提示を多くしたりなど手だての幅が広がります。また、「コグトレ」を行う際に、「がんばっているね。」「集中しているね。」など肯定的な関わりを多くすることで、子どもとのよりよい人間関係を築くことができるのも「コグトレ」のメリットです。

教員 「気になる」の課題意識を「こうしてみよう」の具体的な指導・支援の行動化

トレーニングの成果で聞き漏らしも減ってきた。しかし、長い指示は伝わりにくいから、指示は短く視覚的な支援もしていこう。

今から2つすることを言います。黒板にも書いておきます。



学習の土台づくりと学ぶ意欲の向上が期待できます。

子ども 「こうすれば」の自分なりの方略の獲得 「できた」「楽しい」という成功経験

先生からほめられた。次もがんばろう。



間違いやすいからもう1回見直しをしよう。



聞くトレーニングは得意。英語のリスニングもがんばろう。

写すのは苦手。指で押さえ確認しながら書こう。

子ども自身が自分の得意、不得意を認知することで、得意な部分を生かし、苦手を克服する手だてを学ぶことにつながります。例えば「記号さがし」に取り組む中で、ケアレスミスが多いという自分の特性に気づき、日頃から注意できるようになった子どももいます。また、コグトレは、ゲーム的な感覚で、楽しく取り組みながら、「できた」という達成感などを味わうこともできます。

【参考文献】

《理論編》

「教室の困っている発達障害をもつ子どもの理解と認知的アプローチ」……………宮口幸治著 明石書店 2017年

《実践編》

「もっとやさしいコグトレ 思考力や社会性の基礎を養う」認知機能トレーニング……………宮口幸治著 三輪書店 2020年

「やさしいコグトレ」認知機能強化トレーニング……………宮口幸治著 三輪書店 2018年

「コグトレ みる・きく・想像するための認知機能強化トレーニング」……………宮口幸治著 三輪書店 2015年

社会面のコグトレ 認知ソーシャルトレーニング1……………宮口幸治 宮口英樹著 三輪書店 2020年

社会面のコグトレ 認知ソーシャルトレーニング2……………宮口幸治 石附智奈美著 三輪書店 2020年

不器用な子どもたちへの認知作業トレーニング……………宮口幸治 宮口英樹著 三輪書店 2014年

● 長期欠席・不登校の具体的な対応